

令和3年度

## ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業第一次審査会

日時:令和3年9月29日(水)9:00~

会場:南会津合同庁舎4階会議室

9月29日(水)に本年度の「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業」第一次審査会を行いました。平成14年度から始まったこの事業は「夏の風物詩」として定着し、これまでに644,245組、延べ1,288,490人が参加しています。

本年度の域内応募作品数 1,415点(絆部門1,223点 ふるさと部門192点)  
本年度の域内出品率 94.0%(3年連続90%越え)

今年もたくさんのご応募ありがとうございました。域内では児童生徒数が減少する中ですが、出品率は90%を上回り、思いや関心の高さがうかがえました。

第一次審査は退職校長会の4名の先生方により、予備審査で各校・各部門作品数の10%を選考し、本審査で5%(県規定)の作品に絞り込むという順で行いました。

第一次審査を通過した72作品は県に出品され、この後第二次審査、最終審査へと進みます。

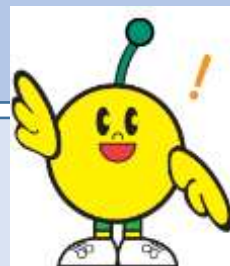
### 【参加者の声】

- 夏休みといたら十七字ですね。考えるのも、皆さんの作品を見るのも楽しみです。(中3・姉)
- 毎年悩みながらつくっていますが、よい思い出になっています。(小6・母)
- 毎年楽しく参加させていただいています。「プレバト」で研究した成果が出ますように…(小1・母)
- 福島の美しさや自然の素晴らしさを改めて考えるよい機会でした。(小1・母)
- 子供がいつも「楽しい夏休み」をテーマに俳句(十七字)を考えています。何が思い出に残ったのが毎年分かるおもしろい宿題です。
- 今年はとくに思い出がなくてつらかったですが、その中でも身近な家族にスポットをあて、思い返すことができました。(小6・母)
- 色々制約のある日常にあって、日々の出来事や親子の時間を振り返るたいへん貴重な事業です。毎年楽しみにしております。(中2・父)



### 【審査員の先生方から】

- コロナ禍の状況の中で、ふるさとの良さを改めて見直した作品が多く見られました。参加者の意見や感想から、本事業が各家庭で定着している様子がわかります。また、作品づくりに苦戦しながらも、思い出の作品づくりを楽しんでいるようです。
  - なるほどと思わせる表現や言葉の使い方も多くあり、よかったです。
  - 今年も愛情溢れるあたたかな心の交流が感じられる多くの作品に触れることができました。ありがとうございました。「作品を作ったきっかけ」では深い内容のもの(命を尊ぶような内容など)も、作品でうまく表現できなかったものがありました。もったいないなあ…。
  - 親子が顔を寄せ合って言葉を紡ぎ出している様子が目に浮かびます。微笑ましい光景であり、それがこの事業のねらいかと思えます。どのように表現するか、お互いに出し合って作っていく過程が意味のある時間なのだと思います。互いに思いをぶつけあって分かり合えることにもなります。
- △ 夏の期間に作品づくりをするため、テーマが重なり同じような作品が多いようです。



### 【審査員の先生からアドバイス】

気持ちを素直に詠んで伝えることもありますが、言葉の選び方・使い方に“もうひと工夫”あるといいですね。